

# こども権利

子どもの権利条約フォーラム

2009 in とやま 報告書



## もくじ

- あいさつ…2
- プログラム…3
- 開会式…4
- 基調講演…5
- シンポジウム・交流会…6
- 分科会プログラム…7
- 展示、ステージイベント…8
- 分科会報告…10
- 物語「子どもにやさしいまち～未来～」…29
- 実行委員会のあゆみ…32
- 閉会式・その後…38
- 実行委員名簿…39

## 「子どもの権利条約フォーラム2009 in とやま」を終えて

実行委員長 明橋大二

NPO法人子どもの権利支援センターぱれっと理事長、心療内科医



1993年、日本が子どもの権利条約を批准する前年に始まった子どもの権利条約フォーラムも、今回で第17回を数えることになりました。

国連採択20周年となる、今年のフォーラムで、私達が、テーマにしたことは、三つあります。

一つは、子どもの権利条約につながる人の裾野をもっともっと広げること。私自身、リストカットや家庭内暴力を繰り返す思春期の子どもたちや、ひきこもり、キレる子ども、あるいは虐待やいじめの問題に関わるうちに、最後にたどりついたのが、自己肯定感の問題であり、そして子どもの権利条約でした。現場で子どもと関わる中で学んできたことが、子どもの権利条約にすべて書かれてあったと知った時の驚きと感動は、今も忘れることができません。単に子どもの権利条約に関わっている人、子どもの権利条約ファンの人だけでなく、子どもに関わるすべての人（親も祖父母も学校の先生も、施設関係者も、行政も地域の支援者もNPOも）が、思考や行動の規範とすべきものが、子どもの権利条約だと思います。今回のフォーラムには、今まで子どもの権利条約をあまり知らなかった人も含めて、子どもに関わるすべての人（子ども自身も含めて）が集うものにしたと、呼びかけをしました。

二つめは、子どもの権利、という考えに抵抗を示す人が少なくない背景には、大人の権利が守られていないことが、大いに関係しています。ひらたく言えば、自分でさえ権利を主張できずに我慢してるのに、子どもだけ権利を主張できるなんておかしいじゃないか、という気持ちです。特に、子育て支援の現場では、まず親が、自分自身を大切にしているんだ、という気持ちを持ってはじめて、子どもの気持ちを大切にできるのだと思います。子ども支援の視点のない子育て支援は、ナンセンスですが、子ども支援に向けるための大人支援、親の自己肯定感を育てていくことは、今の世の中ではとても重要なことではないでしょうか。そこから、今回のフォーラムでは、子育て支援に関する分科会をいくつか設けました。

三つめは、今回は北陸でははじめての開催ですが、北陸、富山というところは、厳しい気候に鍛えられ、実直な県民性で知られる一方、「みゃあらくもん」と言われるような、一風変わった人をも受け入れる度量をもった所です。その中で、富山型デイサービスや14才の挑戦をはじめとして、全国に先駆けた試みがさまざまになされてきました。そのいくつかをぜひ、全国の皆さんに紹介したいと思いました。

H20年4月に、地元の民間団体などを中心に有志をつのって実行委員会を立ち上げてから1年半、H21年5月には、県内小5から18才までの全児童生徒に、子ども実行委員募集のチラシを配布して、自ら名乗りを挙げてくれた37名の子どもたちとともに、一歩ずつ、準備を進めてきました。その結果、新型インフルエンザのさなかにも関わらず、二日間で、のべ1028名もの参加者を迎えることができました。また、森田ゆりさんの基調講演に始まり、シンポジウム、そして翌日の分科会と、子どもの権利条約に基づいた、さまざまな意見発表、意見交換、交流がなされ、内容的にも、とても充実したフォーラムになったのではないかと思います。

しかし、フォーラムは到達点ではなく、あくまで出発点です。

今後、富山県のみならず、日本全国に、子どもの権利条約がさらに浸透し、真に子どもがすこやかに育つ世の中になるよう、これからも、皆さんと手を取り合って、進んでゆきたいと思います。

最後になりましたが、参加して下さったすべての皆さん、そして誰よりも、大活躍してくれた、37名の子ども実行委員に、心から感謝します。

## フォーラムを終えて

子ども実行委員長 石崎仁美

砺波市立出町中学校3年生



私は中学校で、社会の公民の時間に、人権について学びました。誰もがもっている権利を知っていきうちに、どんどん、人権って何だろうと興味が出てきました。ちょうどそんな時に子ども実行委員募集の案内を見て、「子どもの私だからこそ見ることのできる視点からフォーラムで意見を言ってみたい!」と思い、応募しました。

活動が始まってから、子ども実行委員長をやらせていただけることが決まり、実行委員のみんなもすぐに打ち解け、楽しく意見交換することができました。小学生の意見、大人の意見、それぞれ違って新しい考えが広がりました。

伝えたいことを伝えるには、伝える相手がいなければなりません。フォーラムにきてくださった皆様がいたからこそ、自分の思い、考えを伝えることができました。

今回、貴重な体験をさせていただけて、本当に良かったです。

## ■プログラム

### ■11月14日(土) [1日目]

開会セレモニー [メインホール] 13:00~

◎バンド演奏「とやまYMCAそよ風バンド」

◎開会挨拶

基調講演 [メインホール] 13:40~

講師: 森田ゆりさん 『今を生きる子どもたちの人権: 心の力のみなもとへ』

◎ムッピーの人権学習紙芝居 [かわにし子どもの人権ネットワーク]

シンポジウム [メインホール] 「テーマ:おとなと子どもの権利」 15:00~17:00

■ 子ども実行委員 ■ 森田ゆりさん ■ 明橋大二(実行委員長)

交流会 17:30~19:30

### ■11月15日(日) [2日目]

分科会 [午前の部] 9:30~11:30

分科会 [午後の部] 12:30~14:30

同時開催:児童虐待防止シンポジウム [富山県主催]

閉会セレモニー [メインホール] 15:00~16:00



子ども実行委員長による開会宣言

2009年11月14日(土)、フォーラム初日。事前の申込み数は、400名ほどになっていたものの、新型インフルエンザの影響もあり、当日参加者が一体何人来るか、まったく読めないまま、期待と不安の中、当日を迎えた。

12時、受付開始。予想以上の当日参加者があり、メインホールは次第に埋まっていった。そしていよいよ13時、そよかぜバンドの演奏とともにフォーラム開会式が始まった。基調講演の講師 森田ゆりさんは、子どもたちが、あらゆる場面で前面に出て活躍するフォーラムにいたく感動され、「これぞ子どもの権利条約」と何度もおっしゃっていた。

「今を生きる子どもたちの人権:心の力のみなもとへ」と題した基調講演では、子どもの権利を侵害された、さまざまな子どもたちの絵や写真などを通じて、子どもの人権を尊重することの大切さを、熱一杯でお話し頂いた。

続いて、「かわにし子どもの人権ネットワーク」による「ムッピーの人権学習紙芝居」が上演され、兵庫県川西市から駆けつけた子どもたちが、とても身近なテーマから、わかりやすく子どもの人権について訴えてくれた。



富山YMCA そよ風バンドの演奏



直前のリハーサル

講師：森田ゆりさん [エンパワメント・センター主宰]



フォーラムの前に森田ゆりさんから届いたメッセージ:

富山県の子どもたち そして子どもの味方のおとなたち!! 「子どもの権利条約」採択20周年おめでとう。世界中の子どもたちの命の輝きの大きな味方、「子ども権利条約」も20歳の成人となりました。これからまた10年、20年と子どもたちのために活躍してくれるようたくさんの願いを託していきましょう。

わたしは、日本で生まれて育ちましたが、おとなになってからは20年以上もの長い間外国で暮らしました。そしていろいろな国のたくさんの子どもたちと親しくなりました。グアテマラの戦争で両親をなくした子ども。メキシコの地下鉄で暮らす子ども。アメリカ・インディアンの子ども。みんな、つらいこと、悲しいことがたくさんあるのに、目を輝かせて一生懸命に生きる子どもたちは、わたしにたいせつなことを教えてくれました。

それは、どんなに苦しいこと、悲しいことがあっても、それをはねのけて生きる力を、子どもはだれでも持っていることです。そしてそのためには、まわりのおとなや、友だちのちからも必要です。

日本にも、いじめられたり、おとなから暴力をふるわれたりして、つらい思いをしている子どもがたくさんいます。わたしは、子どものちからになれる大人でありたいと思っています。……11月14日当日、みなさんにお会いできることを、心から楽しみにしています。

### 講演内容概略

「お母さん、人はみんな幸せになるために生まれてきたんだよね」母親から暴力を受けていた9歳の女の子の言葉です。人の幸せとは『愛されること=愛すること』『褒められること=褒めること』『人に必要とされること=困った時に助けてくれる人がいること』です。そして、《人権》とは人の生きる力であり『誰でもみんなが持っているもの』『それがないと元気に健康に生きられない』という2つの特性を持っています。

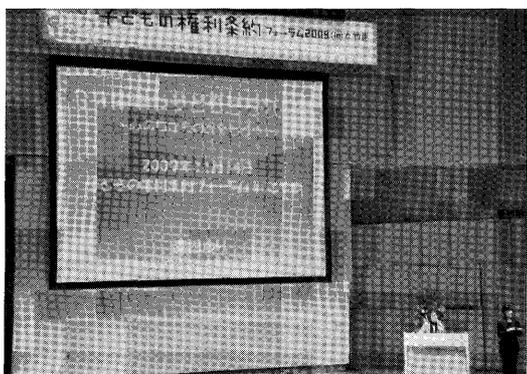
子どもの権利条約の中でも、特別に大切な4つの権利として『子どもたちが元気に生きる権利』『子どもたちが自分らしく育つ権利』『子どもたちの安心が守られる権利』『子どもたちが参加する権利』があり、その中でも、子どもたちが元気に生きる権利、尊重され認められ自分らしく育つ権利、暴力を受けずにいられる安心が守られる権利は、《人権》のことを指しています。

子どもが自分で課題を見つけ、考え、行動する『生きる力』を育むためには『自ら感じる』ことが出発点になります。行動と感情は密接に関わっていて、問題行動や攻撃性を持つ人に関わる時にも、その行動の裏に隠された本当の気持ち、過去の傷つき体験による感情を、しっかり耳を傾けて聴き、理解することが大切です。その心の応急手当により《怒りの構造》に自ら気づくことが、暴力の軽減につながるのです。

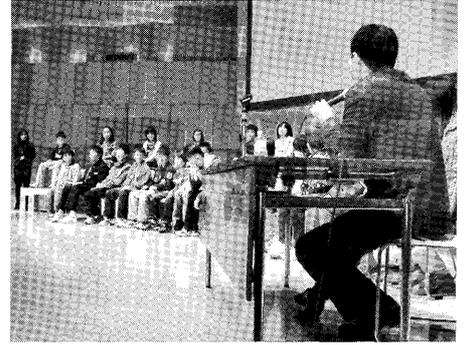
『子どもたちが参加する権利』子ども共同参画社会へ向けては、子どもの権利条約を基盤においた仕組みと、子どもの素晴らしい感性、見事な表現や英知から多くを学ぶ、おとなの姿勢が大切です。子どもの存在は、おとなにとっては未来の輝きですが、子どもにとっては、今を悩み、今を喜び、今輝く、今を生きる存在です。

ある子どもからのメッセージです。

『未来も人生もおとなが作るんじゃない、未来の人生も子どもが作るんだ。未来の人生は子どものためにあるんだ。』



司会役の子ども実行委員からの「森田さ～ん!」という声に呼ばれて、舞台袖からステージ中央まで、元気に手を振りながら駆け上りました。会場の大型スクリーンを使い、ノートPCからの資料を交えての講演は、ゆったりとしたテンポで、子どもたちに優しく語りかけるようでした。



シンポジウムでは、子ども実行委員全員がステージ上に上がり、森田ゆりさんと明橋がコーディネーターとして参加した。最初は、明橋が司会をしていたが、大人が司会をするのでは議論がうまく流れなかったため、急遽、子ども実行委員長に司会が交代となり、その見事な采配ぶりに、会場の多くから驚きの声があがった。

途中、会場の子どもから、メモでいじめのつらい体験が寄せられ、ステージ上の子ども実行委員の一人も自分のいじめられた体験を告白した。それに呼応するように、会場から、とてもつらいいじめの体験が発表された。会場は一瞬静まり返ったが、森田さんが真摯にその苦しみを受け止めて話をされ、また会場から、「さっきあなたは、ステージ前の人に『大丈夫ですか』と声をかけた。そんなあなたは、とってもやさしい人だ。」と意見が出され、会場は温かい拍手に包まれた。

子どもの生きている現場では、大人が想像もつかないような過酷な現実が今もある、しかし、みんなで支え合うことでそれを少しでも乗り越えることができるのではないかと、会場の大人も子どもも真剣に話し合う中で、そういう希望も、また確かに実感できたシンポジウムだったと思う。

交流会では、乾杯の後、氷見の子どもたちによる、「氷見網起し木遣り」が披露され、地域の伝統芸能を、子どもたちが一所懸命守ろうとしている姿に、県外のみならず県内の参加者も深い感銘を受けた。交流会の最大のヤマ場は、ブリの解体ショー。15キロもあるというブリが、実行委員である中尾さん親子の手によって、鮮やかに捌かれ、皆、富山の海の幸を満喫した。



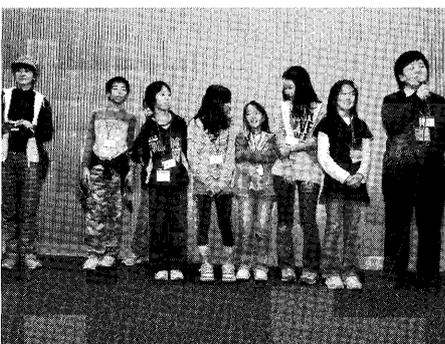
ブリの解体ショー



氷見網起し木遣り



森田ゆりさんにインタビューする子ども実行委員



かわにし子どもの人権ネットワークのみなさん



マイクを持ってインタビューで盛り上がる子どもたち



ブリの頭と記念撮影

## ■分科会プログラム

### ●午前の部

分科会01 ■ あなたに会えてよかった。～社会的養護とこころの居場所～

主催：富山県里親会

分科会02 ■ 「子どもの権利条例」をつくろう

主催：ペアテさんの会／シャキット富山35／NPO法人Nプロジェクトひと・みち・まち

分科会03 ■ 「子どもの時にもっと遊びたかった」と後悔させない!

主催：NPO法人富山・イタズラ村・子ども遊ばせ隊

分科会04 ■ パパ・ママあのおね—幼稚園・保育園と子どもの表現—

主催：富山短期大学附属みどり幼稚園父親の会／高岡男性保育士会／育児と仕事を両立したいパパの集まり

分科会05 ■ 子どもに聴こう…不登校って何?

主催：NPO法人子どもの権利支援センターぱれっと／富山YMCAフリースクール

分科会06 ■ わたしたちも日本で生きてます—外国籍／外国にルーツがある子どもたち—

主催：とやま外国籍子ども支援ネットワーク／フィリピンの孤児を支える会／グループe／山のたまり場野良里／富山YMCA

分科会07 ■ ワークショップ「カンボジアの子どもと子どもの権利条約」

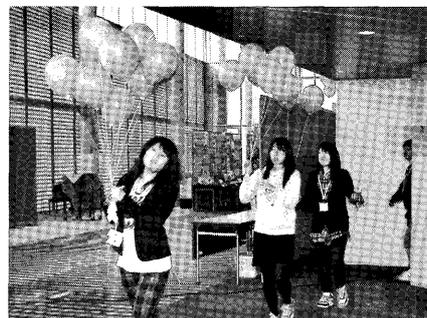
主催：NPO法人国際子ども権利センター大阪事務所

分科会08 ■ カナダ生まれの親学習&支援Nobody's Perfect って何?

主催：こころの子育てインターネット関西

分科会09 ■ 「ここが好き!」～子どもにとってのいい放課後の居場所って?～

主催：水橋アドベンチャーじょうじょう／大沢野しろぼと子ども会



### ●午後の部

分科会10 ■ 子ども実行委員会 (いじめをなくそう)

主催：子ども実行委員会

分科会11 ■ 子ども実行委員会 (おとなへの不満)

主催：子ども実行委員会

分科会12 ■ 子ども実行委員会 (学校・家庭のこと)

主催：子ども実行委員会

分科会13 ■ 富山型で働く・育つ・育む

主催：NPO法人にぎやか／富山福祉ネットワークまちの福祉しらべ隊

分科会14 ■ 子育てほっとカフェ

主催：子育てほっとカフェ／NPO法人元気やネット

分科会15 ■ 伝えよう、すべての子どもに「あなたは大切な人」—今おとなにできること—

主催：富山CAP

分科会16 ■ 親が変わる教師が変わる、それが出発点—アドラー心理学育児のすすめ—

主催：日本アドラー心理学会所属・学習グループルマー・キタ

分科会17 ■ 子どものえがおが輝く学校づくり

主催：にこにこまったりサークル

分科会18 ■ ワークショップで学ぶ子どものケンリ～知って感じる権利条約／子どもと向き合うアイスブレイク～

NPO法人子どもの権利条約ネットワーク

